

平成の城ブーム

平成の城ブームは平成18年（2006年）2月13日に日本城郭協会より「日本100名城」が発表されて4月6日（城の日）に認定されたが、この頃よりはじまるとされている。また長野県からは上田城を含めて5城が認定された。

私が城巡りを本格的に始めるようになったのは50歳（平成10年）を過ぎた頃か。上田城に天守閣が現存していなかったこともあり、余計天守閣を擁する城に憧れた為である。

一口に城といっても天守を擁する城（姫路城）や櫓と門だけの城（上田城）、そして石垣だけの城（竹田城）などそれぞれ訪れる人の思いも様々である。

近世城郭の大半は戦国末期から江戸時代初期に至る半世紀の間に築城され、大小併せて3千あまり造られたという。（諸説有り）

しかし過去3回消滅の憂き目にあった。1回目は1615年徳川幕府による一国一城令、2回目は明治政府による1873年の廃城令（大規模な城郭は解体費用が莫大な為、解体は免れた）、3回目は太平洋戦争による消失であった。

江戸期からの天守が現存しているのは姫路城含む国宝5城、高知城含む重要文化財7城計12城のみである。

50歳代中頃、勤務先の菱食（現三菱食品）で全国にあった出先、関係会社および配送センターのスクラップアンドビルドが盛んに行われ、当時出向先の子会社でこれら資産売却の管理部門の責任者でもあったので、週末、出張帰りに寄れたことも現存12城を訪れることが出来た一因となっている。

訪れた12城の内、印象に残っているのは国宝の松江城である【写真1】。飾り気のない天守を擁する城であり、周囲を囲む約4kmの堀川を50分かけてゆっくり巡る船旅は時間が過ぎるのを忘れる程であった。

もう一つは重要文化財の備中松山城【写真2】でこれは岡山県高梁市にある天空の山城で、山道の途中「本日の登城大義である」との立て看板に苦笑いしたのを覚えている。

平成になると権力の象徴でもあった城が、文化的価値や観光資源としての価値が見直されて、城郭の整備、現存天守の保存、天守や御殿の復元等により城が蘇る時代となった。

姫路城の平成の大改修や名古屋城本丸御殿の復元、更に昨年（2022年）の12月に上田城の整備にと市民から10億円の寄付があったのは記憶に新しいところである。

平成29年4月6日に「続日本100名城」が認定されて更に城ブームを後押しすることになった。

200名城の内、現在約60城を訪れているが、これからも元気なうちにいろいろな機会を捉えて未探訪の城に登城したいと思っている。

【写真1】 松江城



【写真2】 備中松山城

